

ー海峡に生きた縄文ムラー

古野 (2) 遺跡

現地見学会資料

主催：青森県埋蔵文化財調査センター

令和元年7月27日(土)

土偶出土！

斜面から縄文時代中期後葉(約4,300年前)の土偶が出土しました。平場に集落を作った人々が、役割を終えた土偶を捨てたのでしょう。

顔(目・鼻・口・耳)、髪形、乳房の表現があり、当時の女性像を知ることができます。

(表)

(裏)

(表)

(裏)

三内丸山遺跡センターで「あおり土偶展」開催中☆

9月1日(日)まで、三内丸山遺跡で、北海道・東北を中心とした土偶展が開催されています。有名な遮光器土偶が里帰りし、山形県出土の国宝土偶(日程限定)も展示されます。この機会に是非ご覧下さい。中学生以下は無料です！夏休みの自由研究にも如何でしょうか？(休館日：7月22日・8月26日)

古野(2)遺跡は、易国間地区の風間浦村役場から西に約600m、標高44mほどの海岸段丘上に位置します。昨年から今年にかけて上面の平場と斜面を約4,500㎡調査したところ、縄文時代の竪穴建物(住居)跡9軒のほか、貯蔵穴10基、溝状土坑12基などが検出されました。

この場所では、まず縄文時代前期後葉(約5,000年前)に平場で縄文人の生活が始まりました。見つかった竪穴建物跡は多くはありませんが、平場と斜面に生活の道具類が数多く捨てられています。やがてムラから縄文人が去りますが、縄文時代中期後葉(約4,300年前)に、また縄文人が暮らし始めたようです。竪穴建物跡のうち3軒は炉や出土土器の特徴から、この時期のものと考えています。第4号竪穴建物跡では、一方向が開口した長さ120cmの大きな石囲炉が見つっています。やがてこの頃の人々もこの場所を去ってしまいます。

縄文時代後期前葉(約4,000年前)には、急傾斜の斜面を利用して大きな食料貯蔵用の穴倉が作られています。中には完全な形の土器が入っていたものもありました。

また詳しい時期は不明ですが、狩猟用の落とし穴と考えられている細長い穴が掘られていました。

出土した縄文土器の多くは煮炊き用の鍋の機能を有するもので、石器は、石鏃(せきぞく)が多く、石槍(いしやり)や石斧(いしおの)も出土しています。縄文人の女性が土器を使って調理をし、男性たちは狩りで動物を獲り、ムラの周辺の森で木を伐採していたことが想定されます。

ちゅうけつ
柱 穴

いしがこいる
石囲炉

ちゅうけつ
柱 穴

古野(2)遺跡 第4号竪穴住居跡

縄文時代中期後葉(約4,300年前)の楕円形の石囲炉。右端は石が無く、開口しています。

「貯める穴！ 落とす穴！」

縄文時代の遺跡では、様々な穴が見つかります。大きさや形もホントにいろいろ。

直径10cmの小穴から直径2mの円形の大穴、細長い溝のような穴など。

それらの穴の役割は不明なものが多いのですが、中にはある程度推定できるものも……。

上面が狭く、底が広くなる「フラスコ状土坑」と呼ばれる穴には、まれにトチの実やクルミが見つかることがあり、秋に大量に採取した木の実を「貯める穴」と考えられています。中には、貯蔵穴として使用後に、お墓に転用される例も他遺跡で見つっています。

長さ2～4mほどの溝状の穴は並んで見つかるのが特徴です。けもの道に仕掛けて動物を落とす穴と推定され、我々はTRAP(わな)の頭文字から「Tピット」と呼んでいます。

当遺跡ではまだ未発見ですが、楕円形のものは墓穴と考えられています。

本年12月7日(土)・8日(日)に、青森県総合社会教育センターで開催される青森県埋蔵文化財発掘調査報告会において、今年度県内各所で行われた発掘調査の成果を報告する予定です。併せて出土遺物も展示します。詳細はホームページ等でご確認ください。

古野(2)遺跡
現地見学会資料

令和元年7月27日発行

青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市新城字天田内 152-15



急傾斜の斜面の調査状況。

このような場所に食料貯蔵用の穴が掘られていました。



縄文時代後期前葉(約4,000年前)の食料貯蔵用の穴。

土器2点が潰れて出土しています。

【風間浦村の遺跡と江戸時代の様子】

風間浦村では、今のところ 24 の遺跡が知られています。易国間地区へ集中しています。

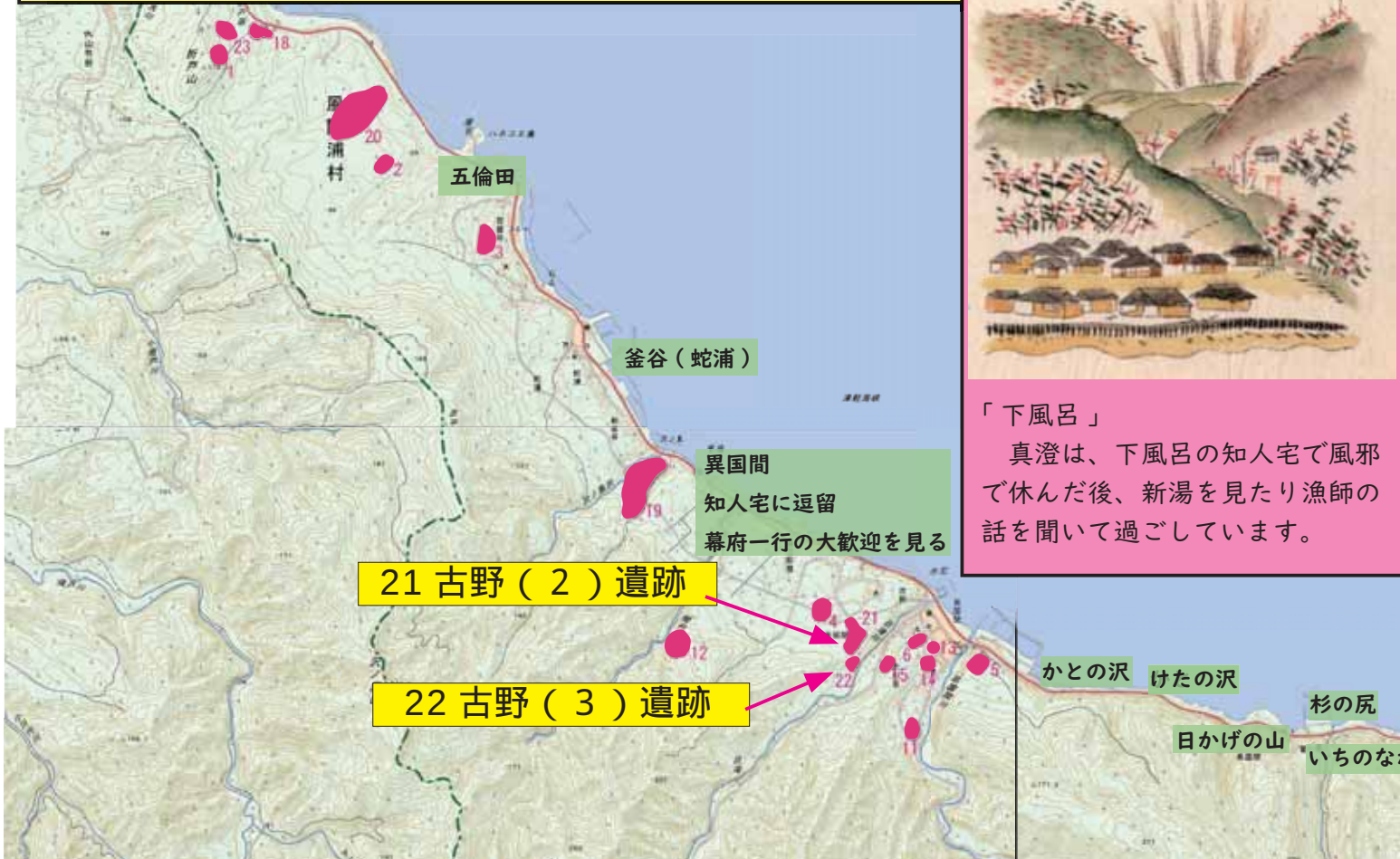
時代ごとの内訳は、縄文時代が最も多く（前期 10、中期 9、後期 9、晩期 4、詳細時期不明 1、※遺跡重複有り）、奈良時代 1 遺跡、平安時代 3 遺跡、中世 2 遺跡、時期不明 1 遺跡です。

この一帯は隆起海岸であり、現在の集落がある海岸線のすぐ近くは、縄文時代には海であった可能性がある場所で、縄文時代の遺跡はほとんど見つかりません。

海を見下ろすような高台のほか、やや内陸側に入った川沿いに遺跡が位置しています。

その他、まだまだ知られていない遺跡が多数あると考えられます。

江戸時代に訪れた菅江真澄についても右で紹介します。



「下風呂」
真澄は、下風呂の知人宅で風邪で休んだ後、新湯を見たり漁師の話聞いて過ごしています。

江戸時代の旅人「菅江真澄 (1754～1829)」

約 230 年前の江戸時代後期にこの地を訪れた「菅江真澄（白井秀雄 幼名英二）」という人がいます。生涯を北への旅で過ごし、訪れる各地で風習や風土、見聞き、体験したことを文章・絵画で「日記」の形で記録しています。詩歌のほか、医学や薬学にも明るく弘前藩・秋田藩でも活躍し、「民俗学の父」とも評されています。

この風間浦村の様子も書き留めており、わかりやすい現代語訳（内田武志 編訳）で読むことができます。当地の記録を抜き出すと、寛政 4 年 8 月 10 日（西暦 1792 年 11 月 23 日）に大間町から大畑へ向かう道中の記録では、「五倫田のくぐり岩」や「農漁民が蛇を嫌うので蛇浦とは呼ばず、釜谷の地名で呼ぶ」とか「異国間という地名は昔、高麗人が漂流してきたから」、「下風呂には大湯と新湯の二つがある、険しい海岸沿いに滝があり、そのしぶきに濡れて歩いた」などなど。



晩年の菅江真澄肖像画

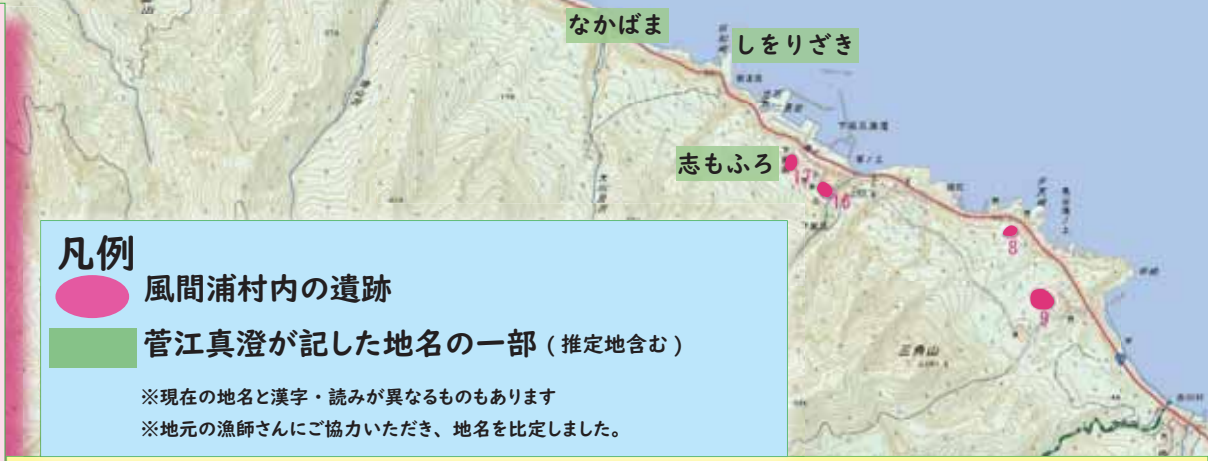
さらに翌年寛政 5 年には、8 月 2 日～9 月 18 日（西暦 1793 年 9 月 6 日～10 月 22 日）と二か月弱にわたり風間浦村内、ほとんどが易国間に滞在（寛政 5 年 8 月 4 日～9 月 14 日）しています。

その中で古野 (3) 遺跡の横を流れる目滝川についての記述では、「子供たちが、夜に女滝川の川上で、干した麻をたいまつにして、アユやカジカを獲っていた。」とあります。

ロシアのラクスマンとの交渉を終え、北通りの巡視を行っていた幕府の役人一行を、易国間の人々が大歓迎している様子も記録されています。道は綺麗に掃除され、各家はすだれを敷いたり掛けて、酒・アワビ・ウニ・スズキ・タナゴ・カツオで歓待し、人々は泣いて感激する有様だったようです。

易国間から下風呂へ歩いて通った地名は「釜の前、ふた川、おほゆるみ、こゆるみ、くろさき、つぶた、さくま、さいとう、やけ山、なかばま、しをりざき」と記され、今でも残っていたりやや変化した地名が見受けられます。また案内の子供が、浜ごとに良く獲れる魚を口にしています。「易国間のソイ、杉の尻のタイ、いちのながれのスズキ、桑畑のバクトク、ゆるみのタナゴ、黒崎のアブラコ、つぶたのビリクソ、さくまのナメト」など。昼頃に下風呂に到着した後は、知人の家に泊まり、体調が整った後、新湯に行って紅葉を見たり鹿の鳴き声を聞いています。

真澄は、恐山や田名部・大畑・佐井など下北半島各地で 2 年半を過ごし、津軽へ向かいます。



凡例

● 風間浦村内の遺跡

■ 菅江真澄が記した地名の一部（推定地含む）

※現在の地名と漢字・読みが異なるものもあります
※地元の漁師さんにご協力いただき、地名を比定しました。

風間浦村の遺跡地名表（ 青森県教育庁文化財保護課作成の遺跡地名表に加筆）

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	時代	種別	遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	時代	種別
1	折戸神社遺跡	オリトジノジャイセキ	大字蛇浦字折戸	縄文(前・中)	散布地	13	易国間遺跡	イコクマイセキ	大字易国間字小易国間	縄文(後・晩)	散布地
2	潜石(1)遺跡	カゲリイシカクコイセキ	大字蛇浦字潜石	縄文(前・中)	散布地	14	易国間小学校遺跡	イコクマシヨウガクコウイセキ	大字易国間字大川目	平安	散布地
3	古釜谷平遺跡	フルカマヤダライセキ	大字蛇浦字古釜谷平	縄文(中)、奈良、中世	散布地	15	小易国間遺跡	コイコクマイセキ	大字易国間字小易国間	縄文(後)	散布地
4	古野(1)遺跡	フルノカクコイセキ	大字易国間字古野	縄文(前)	散布地	16	下風呂(1)遺跡	シモフロカクコイセキ	大字下風呂字下風呂	不明	散布地
5	易国間神社遺跡	イコクマジノジャイセキ	大字易国間字家ノ上	縄文(前)	散布地	17	下風呂(2)遺跡	シモフロカクコニセキ	大字下風呂字下風呂	縄文(晩)	散布地
6	小倉畑遺跡	オガハラタイセキ	大字易国間字小倉畑	縄文(後・晩)	散布地	18	折戸(1)遺跡	オリトカクコイセキ	大字蛇浦字折戸	縄文(前・中・後)	散布地
7	桑畑遺跡	クワハタイセキ	大字易国間字湯ノ上	縄文(前・後)	散布地	19	沢ノ黒遺跡	サワノクロイセキ	大字蛇浦字沢ノ黒	縄文(前・中・後)	集落跡
8	鳥谷場遺跡	トリヤバイセキ	大字下風呂字鳥谷場ノ上	縄文(前・中)	散布地	20	潜石(2)遺跡	カゲリイシカクコニセキ	大字蛇浦字潜石	平安	集落跡
9	甲平ノ上遺跡	カゲトダイノウエイセキ	大字下風呂字甲平ノ上	縄文(中・後)	散布地	21	古野(2)遺跡	フルノカクコニセキ	大字易国間字古野	縄文(前)	集落跡
10	釜ノ沢遺跡	カマザイセキ	大字易国間字釜ノ沢	縄文(中・後)	散布地	22	古野(3)遺跡	フルノカクコサンイセキ	大字易国間字古野	縄文(後)	散布地
11	大川目遺跡	オオカワメイセキ	大字易国間字大川目	縄文(晩)	集落跡	23	折戸(2)遺跡	オリトカクコニセキ	大字蛇浦字折戸	縄文	散布地
12	根戸内沢遺跡	ネノウナイズイセキ	大字易国間字根戸内沢	縄文(前・中)、平安	散布地		折戸坂遺跡	オリトザカイセキ	大字蛇浦字折戸	中世	不明

※ 青森県遺跡地図 (<https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/isekitizu.html>)
青森県教育庁文化財保護課埋蔵文化財グループ作成の遺跡地図に加筆